

南海トラフと地震

南海トラフは日本の太平洋岸沿いを通っている海溝で、ここでユーラシアプレートとフィリピン海プレートが交わっています。強度の地震が周期的にここで起こり、大きな津波がよく発生します。四国南部の人々は常にこの脅威にさらされ、様々な方法でそれに順応するよう強いられてきました。土佐清水市に点在する多くの石碑は、その一例です。これらの記念碑の多くには、後世の人々が知って備えができるように、過去の津波の高さや、内陸のどこまで波が到達したかなどが詳しく刻まれました。日本政府は南海トラフ巨大地震は、今後数十年以内に起こる可能性が高いと予測しているので、きっと準備は整っているでしょう。しかし、南海トラフ地震は単なる脅威以上のものとも考えることもできます。何十万年にもわたる、海溝に沿った継続的な地殻活動は、土佐清水周辺の風景をかなり形づくり、この地域の険しい崖や多くの湾、豊富な漁場をもたらす一助となりました。